

第3回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2018年3月12日（月）15時15分～16時15分

場 所：JA セレサみなみビル 3階会議室

出席者：〔委員〕庄司、末吉、瀧田、中山

〔川崎市〕地球環境推進室 齋藤、宮川、内田、加賀谷

〔事務局〕株式会社ダイナックス都市環境研究所 北本、小池

1 開会

開会に先立ち、庄司委員長から「今年度のかわさきコンパクト（以下、「KC」とする。）の締めくくりとなるので活発な議論を期待したい」というあいさつがあった。

2 議題

(1) 今年度の事業報告について

事務局（株式会社ダイナックス都市環境研究所）から資料をもとに、今年度実施したKCの事業についての報告が行われた。委員からは以下の意見があった。

【第2回交流会について】

- （委員）SDGs と話がどうつながっていくかわからない中でパーム油をテーマに議論を行った。マレーシアの生産現場の実態の問題は、過去のバナナの問題と同じように劣悪な労働環境や森林破壊、先住民の地域の侵食など多くの問題をはらみながら世界中で使用されているということがわかった。それを踏まえて各主体の役割をロールプレイするなどして活発な議論を行った。SDGs に繋がり、非常に勉強になった。
- （委員）私のグループは行政や一般企業、市民団体等いろいろな立場の方が集まって議論した。最初にパーム油がいかに優れていて、我々の生活に欠かせないものであることを認識した上で、その栽培等に当たり多くの問題があることがわかった。我々の生活の中で製品の裏側にある事象を見なければならないことを認識できる良い題材だった。結論は出ないが様々な立場の人や考え方があることを痛感した。
- （委員長）いろいろな製品には裏があるが、我々は普段の生活で考える余裕もなく選択をしていることを再認識した。SDGs を知らなくても参加できる良い企画だった。また、自己紹介の際に紙に自己紹介の内容を記入して行ったが、自分の活動を振り返ることができ、かつ時間の短縮にもなる楽しいものだった。企業の方にももっと参加していただくと良いと思った。
- （市）開発教育協会のプログラムを実施していただいたが、身近なテーマという

こともあり、参加者全員が SDGs についての理解を深めることができたと思う。

- (委員長) 市の職員が多数参加していたが、何か告知などをしたのか。
- (市) どこのセクションも SDGs に関わるべきだという考えで全庁に周知を行ったところ、様々な部署から手が挙がった。

【今年度事業について】

- (委員長) 冊子に掲載されていない団体がいくつかあるがこれは原稿をもらえなかったのか。
- (事務局) 何度か依頼をしたが最終的にいただけなかった団体になる。
- (委員) 冊子の表紙の「サステナブルなかわさきをめざして」とあるが、「かわさき」がひらがなだと埋没してしまっている。字体等を工夫して目立たせてほしい。「かわさき」の統一的な使い方を検討しても良い
- (委員長) チラシは普段はどのように使っているのか。
- (市) 冊子は詳細を記載しているがかさばるので、イベントの性質に応じて媒体を使い分けていく。
- (委員長) 多くの人の手に渡るように考えてほしい。ごえん楽市ではチラシで勧誘を受けたという話も交流会で聞いた。事業者に対しても同様に機会を逃さずアプローチしてほしい。
- (委員) 事業者に対しても、商工会議所を通じてなどいろいろなタイミングを見計らってアプローチをしてほしい。

(2) SDGs への取組及び次年度以降のかわさきコンパクトについて

市から、川崎市の SDGs の推進体制の検討状況及び企業と連携した取組事例について報告された。委員からは以下の意見があった。

- (委員) SDGs と KC を同時に掲出したのは初めてだと思う。難しいかもしれないが、ここからさらに KC の 9 原則 3 宣言と、SDGs の 17 の目標との関連についても言及しても良い。グローバルコンパクトから SDGs に重点を移していくとなった時に、KC のそれぞれの原則・宣言が SDGs にどう関わるかについての言及からはじめて、だんだんと SDGs に吸収していくようなことも考えられる。

また、市として SDGs に取り組むのであれば、市民や企業の目に触れる行政施策について SDGs のどの目標に関わる施策なのかについて示したり、あるいは、企業とタイアップする際に SDGs のどの目標について協働するかを示したりすることなどが考えられる。企業側から市に SDGs を通じて協働のアプローチをしようというのも良い。そうすれば日本の地方自治体の中でも先進的な取組になる。

- (市) 味の素株式会社と花王株式会社等と連名で、夏休みプロジェクトで内閣府の SDGs アワードへの応募を行った。今年度は受賞がかなわなかったので来年度は作戦を練り直して応募を考えている。

- ▶ (委員) SDGs への取組を通じて、市の職員も日常の業務に新鮮な視点を持てると思う。職員自身が楽しく取り組むことで、市民や企業が喜ぶ行政になる。そういう可能性を持っていると思う。
- ▶ (市) サステナビリティレポートなどに SDGs のロゴを使用している企業も増えている。市の施策全般についても何らかの形で SDGs との整理をしていければと思っている。課題を複合的に解決していく意図もあるので、組織横断的な取組も必要になってくると思う
- ▶ (委員) 17 の目標と 169 のターゲットの他に、川崎市独自のターゲットを作っても良いのではないかと。企業の方も自分の SDGs を選択してもらって、自分の SDG を持つというのも良い。
- ▶ (委員) 事業の中に織り込んでしまえば、SDGs がより具体的に自分ごとになる。全ての部門の人間が必ずどれかの目標に該当すると思う。
- ▶ (委員) SDGs のシンポジウムに参加したが、その際に「行政に依存するのではなくステークホルダーが自ら独自に考えることが大事だ」という発言が印象に残った。そういうことを考えると、KC の企業が 17 の目標のうちどれを目指しているかを冊子の内容に加えるとわかりやすくなる。「サステナブルなかわさきをめざして」という言葉も行政だけではなく企業や市民団体も関わっていることが示せる。
- ▶ (委員) 今後、市全体として SDGs に取り組む体制ができるのであれば、可能であれば市役所内で人事の辞令を出せないか。加えて「チーフサステナビリティオフィサー」といった役職を設置したらより先進的なものになる。企業ではサステナビリティに関わる総責任者だが、これを市長や副市長がやるという体制になれば、より強いアピールポイントとなる。企業は SDGs への取組を本業だと思ってやっているのだから、市にもそういった意識を持ってやると良いと思う。

3 閉会